漢字と元号・姓名・地名

朝日カルチャーセンター・新宿教室　2018/12/24　担当　加藤徹

　なぜ「武蔵」はブゾウでなくてムサシなのか？　「相模」がソウモでなくサガミである理由は？　韓国の首都ソウルは漢字で書けないのに(中国語では漢字を当てる)日本の首都はなぜ「東京」と漢字で書けるのか？　その理について、話は713年、奈良時代の初めに元明天皇（女帝）が発した「(諸国郡郷名著)好字令」にさかのぼる。

　日本の地名は、国号「日本」も含めて、漢字2文字が多い。現代の鉄道名も「総武」線（下総と武蔵を結ぶ鉄道）とか「京成」線（東京と成田を結ぶ鉄道）など二文字が多い。中国や朝鮮半島の地名と比較しつつ、日本の地名の特徴と歴史をわかりやすく解説する。

中国史では古代の一字地名から二字地名へ

　現代中国の地名は二字地名がデフォ。しかし古代は一字地名がデフォ。

　現代中国でも、行政区の略称は古代の一字地名を使うことが多い。

　現代でも昔の旧国名を使う点は、日本とよく似ている。千葉県と東京を結ぶ電車は「総武線」つまり下総と武蔵を結ぶ線と呼ぶ。

　以下は中国の例。料理や芝居や方言の名称、鉄道路線の名前、自動車のナンバープレートなど、現代でもよく使われる。

　下記の略称のうち、現代の二字地名から単純に類推できないものは、古代の地名を利用しているものが多い。

直轄市　北京市→京　天津市→津　上海市→滬　重慶市→渝

河北省→冀　山西省→ 晋　遼寧省→遼　吉林省→ 吉　黒竜江省→黒　江蘇省→蘇

浙江省→浙　安徽省→皖　福建省→閩　江西省→贛　山東省→魯　河南省→豫

湖北省→鄂　湖南省→湘　広東省→粤　海南省→瓊　四川省→川とか蜀

貴州省→貴とか黔　雲南省→雲とか滇　陕西省→陕とか秦　甘粛省→甘とか隴

青海省→青　※台湾省→台

内モンゴル自治区→蒙　広西チワン族自治区→桂　チベット自治区→蔵

寧夏回族自治区→寧　新疆ウイグル自治区→新

香港特別行政区→港　マカオ特別行政区→澳

※中華人民共和国では「台湾省」と呼ぶ。

古代中国では、人名も地名も「固有名詞部分」は一文字が原則だった。

殷周期の地名

　亳(はく)

　商→大邑商(現在は「殷墟」と呼ばれる)

　朝歌　これは例外的に二字地名。

　雒邑(洛陽の古名)

異民族の名称・地域名は二字でもよかった。

　葷粥(くんいく。北方の異民族の名前漢の時代の「匈奴」の先祖という説あり)

　獫允(けんいん。北方の異民族の名前)

　春秋戦国時代の中国にあった「国名」も一字名がデフォだった。古代中国の「国名」は地名、都市名の概念とも重なっていた。

唐の長安に見る地名の変遷

「唐の都・長安」は、現在の中華人民共和国陝西省西安市にあたる。西安および郊外の一部の地名も「一字地名」から「二字地名」へ変遷した。

　西周の都・豊邑or豊京（ほうけい）

　西周の武王の鎬京（こうけい）

　秦の始皇帝の咸陽(咸水すなわち咸という名前の川の日当たりのよい北側、の意)

　漢の劉邦から「長安」という二字地名になった。「長」と「安」に分解すると地名ではなくなる。

　長安はその後、西都、西京、大興、京兆、奉元などとも称された。

　明朝のはじめ、元朝の奉元路を廃止して西安府を設置した。以後、西安が基本的な地名となる。

日本の地名

日本最古の地名は

　漢字が伝来・普及する以前の地名は不明。

　対馬は、『三国志』のいわゆる「魏志倭人伝」の中に「対馬国」(紹熙本では「対海本」)として見える。日本では「津島」と書かれたこともあったが、律令制のもとで「対馬」の表記に定まった。

　魏志倭人伝の末盧国は「松浦」国、狗古智卑狗は「菊池」彦、などに比定する説が有力だが、実証はされていない。

武蔵の語源は諸説紛々

　東京や埼玉の昔の地名「むさし」の語源は不明で、諸説紛々。

　賀茂真淵の説では、もともと身狭（むさ）国があったが、のちに身狭上（むさがみ）と身狭下（むさしも）に分かれて、それぞれがのちに相模と武蔵となった、とする。

　本居宣長の説では、武蔵国はもともと駿河や相模と共に佐斯(さし)国と呼ばれ、後に佐斯上（さしがみ）と下佐斯（しもざし）に分かれたが、それぞれがさらに変化して相模と武蔵となった、とする。

　「むさし」の漢字表記は、7世紀の遺跡から出土する木簡史料によると「无射志」「牟射志」「牟佐志」「無邪志」「胸刺」など一定していなかった。

「諸国郡郷名著好字令」「好字令」「好字二字令」

元明天皇の和銅六年(713年)五月に出た勅令。原文は「畿内七道諸国郡郷名、着(著)好字」。従来の説では、これ以後、日本の地名は中国の二字地名にならって、良い意味の漢字二字で表記するのがデフォとなったとされる。ただし、正倉院文書や出土木簡などの地名表記を見ると、すでに慶雲四年(707年)ごろまでには国名表記の二字化が完了していたので、和銅の好字令は令制国の名前ではなく「畿内と七道諸国の郡郷名」を対象としたもの、という説もある。

　日本古来の地名の二字表記統一化は、かなり無理があった。

「无射志」→「武蔵」ブゾウとしか読めないけれど、これで「ムサシ」と読む。

「上毛野」→「上野」カミツケヌのくに、から、コウズケのくに、へ。「毛」を省略。

「下毛野」→「下野」

　本来なら漢字一文字で表記できるのに、

「泉」→「和泉」

「車」→「群馬」

「木」→「紀伊」

「津」→「摂津」

など無理やり二文字に引き延ばされたものもあった。クルマのくにがグンマになったように、強引な二字地名化により本来の発音も変わってしまった例も多い。摂津の地名の由来は、天武天皇の時代に、津国を「摂する」ための機関「摂津職（せっつしき）」を置いたことにちなむ。

「やまと」の表記

　国名としては、倭→大倭→大和。

　魏志倭人伝の「邪馬台国」が「ヤマトのくに」であるかどうかは不明。

　古事記・日本書紀や万葉集では、夜麻登、山跡、野麻登、椰麽等、夜麻苔、山常、也麻等、夜末等、夜万登、八間跡などさまざまな表記も。

「日下」を「くさか」と読むなぞ

　クサカは、『日本書紀』神武紀に「草香邑（くさかむら）」「草香津（くさかのつ）」「孔舎衙坂（くさかのさか）」などとして出てくる。現在の大阪府東大阪市日下町(くさかちょう)か。

　なぜ「日下」と書いて「クサカ」と読むのか。古来、諸説がある。

　枕詞説。クサカという地名の枕詞が「ヒノモトの」だった、と推定する説。ただし、そんな枕詞を使った古代の和歌は発見されていない。

　減画略字説。1997年の「ＮＨＫ人間大学」の「景観から歴史を読む」で足利健亮氏が示した仮説。「日下」は「草下」の省略表記に由来する、という仮説。

　結局、日本の二字地名は「日下」も含めて、正確な由来が不明なものが多い。

多摩川と玉川と多磨霊園

　本来は同じ地名なのに、漢字表記では別々になってしまい、関係がわかりにくくなってしまったものも多い。

　多摩川と玉川と多磨霊園の関係。

　徳島県の阿波と千葉県の安房の関係。語源は「粟」の国。

　古代の安曇氏(あずみうじ)と熱海・安曇・阿曇・渥美・厚見・厚海・阿積・泉・飽海などの地名の関係。

平安京大内裏の「外郭十二門」の名前

　平安京を造営したとき、それぞれの門の工事を監督した氏族の名前からとった。殷富門は伊福部氏、美福門は壬生氏、皇嘉門は若犬養氏、陽明門は山氏、など。

　ではクイズ。待賢門の名前の由来となった氏族「建部氏」は、なんと読む？

応天門と大伴氏

　中国の歴代王朝の皇城にも「応天門」はあった。

　日本でも、平城京や平安京、現在の平安神宮に「応天門」がある。平安京の応天門の造営には大伴氏がかかわった。その子孫である伴善男（とものよしお）が応天門の変(866年)で失脚するのは、歴史の皮肉である。

さいたま市の謎

　埼玉県の県庁所在地はなぜ「埼玉市」ではなく「さいたま市」なのか？

　大宮市、浦和市、与野市の３市合併のとき、新しい市名の最終候補は、公募で集まった中から、

　１位「埼玉市」　　　　　7117票

　２位「さいたま市」　　　3821票

　５位「彩都市」　　　　　2495票

　７位「さきたま市」　　　1374票

　37位「関東市」　　　　　217票

の五つに絞られた。なぜトップの「埼玉市」が採用されなかったのか？

　表向きの理由は「埼玉県の由来は、埼玉県行田市にある地名・埼玉(さきたま)であり、行田市が反対したから」とされるが･･････もしかしたら･･････(以下は教室で)

参考サイト　https://ncode.syosetu.com/n9118cy/4/

新駅の名前「高輪ゲートウェイ」について

　これは教室で。

2018/12/24